

各国金融政策会合に注目=米FOMC、日銀金融政策決定会合など

2026年3月16日(月)

16日からの週の注目材料

16日からの週は、主要国の金融政策会合が集中しています。

17日にオーストラリア、18日に米国、19日に日本、英国、スイス、ユーロ圏の金融政策会合の結果が発表されます。

注目は利上げの可能性があるオーストラリア、今後の金融政策への注目度の高い日本、米国、英国となります。

【米国】

まずは最も注目度の高い米連邦公開市場委員会(FOMC)を見ていきます。

今回は四半期に一度の参加メンバーによる経済見通し(SEP)が公表される回にあたっています。

政策金利であるFF金利翌日物誘導目標は現行の3.50-3.75%での維持が見込まれています。

前回の会合では12名中2名が利下げを主張しました。そのうちの一人ウォラー理事は、

2月の米雇用統計が1月に続いて堅調な結果を見せた場合、据え置きに転じる可能性を示していましたが、

2月の雇用統計はサプライズなほどの弱さを見せています。ただ、雇用の弱さなどを加味しても、当面の利下げは難しいと見られます。

イラン紛争を受けた原油高が米国のインフレ懸念につながっており、当面の利下げが難しいと見られています。

注目は声明やパウエル議長の会見での今後の姿勢と、SEPの中で示される年末時点での各メンバーによる

政策金利見通しを示したドットプロットとなります。イラン紛争が始まるまで、

短期金利市場では年内2回の利下げ見通しが大勢で、3回の見通しもそれなりに高いという状況でした。

しかし、イラン紛争の長期化が警戒され、ホルムズ海峡の閉鎖を受けて世界の原油供給状況もかなりの警戒感が広がる中で、

原油が大きく上昇していることから、物価高を警戒して年内1回の利下げが本線となっており、

年内据え置きの可能性も出てきています。金利先物市場動向からの政策金利見通しを示すCME FedWatchツールでは、

年内1回の利下げが最も多いものの、据え置き見通しも37.7%とかなりの割合に上がってきています。

前回12月のFOMCで示されたドットプロットでは、年内1回の利下げ見通しが中央値と、

その時点での金利先物市場での織り込みよりも利下げに慎重な姿勢が示されていました。

それでも19名中8名は2回以上の利下げを見込むなど、利下げに積極的なメンバーも見られました。

今回、この見通しがどこまで上方修正されているのかが注目されます。前回のFOMCで利下げに投票したミラン理事は、

超ハト派な姿勢から今回も大幅利下げ見通しを示してくると見られますが、

その他のメンバーは利下げにかなり慎重な姿勢が増えると見られます。

また、前回3名いた年内利上げに回るという見通しが増えている可能性もありそうです。

当面の金利据え置き見通しが広がるとドル買いが見込まれます。

【豪州】

続いて、ここにきて急速に利上げの期待が広がっている17日のオーストラリア準備銀行(RBA)金融政策会合です。

2月に約2年3カ月ぶりの利上げに踏み切った豪中銀。利上げの決定が全会一致であったこと、

会合後のブロック総裁の会見で「需要やインフレの動向次第では追加利上げが必要になる可能性がある」と追加利上げの可能性が示されたことなどから、利上げサイクルが期待されています。

3月4日に発表された豪10-12月期GDPは、国際商品価格上昇などを受けた輸出の伸びなどに支えられ、

前期比+0.8%、前期比年率で3.2%と高い伸びとなっており、こちらも利上げ期待につながりました。

ただ、内訳をみると個人消費や設備投資といった内需に伸び悩みが見られ、市場では3月の利上げは難しく、

追加利上げは5月との見方が一般的となっていました。

10日朝時点での金利先物市場での3月の利上げ期待は16%にとどまっています。

しかし10日にハウザーRBA副総裁が「原油高騰により豪州のインフレは2月に予測した数値を上回る見通し」

「高すぎるインフレを中銀目標に戻すために必要な措置を講じることが極めて重要」と発言。

このタカ派姿勢を受けて、市場では17日の見通しを「据え置き」から「利上げ」に変更する動きが広がっています。

さらに5月にも追加利上げという見方も出てきており、注目は声明などでの今後の追加利上げ姿勢となりそうです。

【日本】

日銀金融政策決定会合については、イラン紛争の長期化懸念もあって据え置きが見込まれています。

市場では春闘の状況が判明する4月の会合での利上げ見通しが広がっています。

短期金利市場での織り込みは68%程度となっています。注目は声明や植田総裁の会見で、

中東情勢を受けても利上げを進める姿勢が見られるかどうかとなりそうです。

利上げに向けた姿勢が意識されると、いったん円買いとなる可能性があります。

【英国】

英中銀(BoE)も政策金利は据え置きが見込まれています。イラン紛争前まで英中銀の利下げサイクルは継続と見込まれており、

年内あと2回の利下げを見込む動きが主流となっていました。紛争直前の短期金利市場の織り込みを見ますと、

ほぼ100% 2回の利下げを織り込んでいました。しかし、原油高からの物価上昇懸念を受けて利下げ期待が一気に後退しており、

直近では年内1回の利上げを織り込む動きも出ています。今回の会合は金融政策報告がなく、

総裁会見も予定されていないので、声明や議事要旨で今後の姿勢を確認し、

投票の内訳などにも注意しつつ今後の見通しを探る展開になりそうです。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社ミンカソリューションサービス」では責任を一切負いかねます。「株式会社ミンカソリューションサービス」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社ミンカフ・ジ・インフォノイドに帰属し、株式会社ミンカフ・ジ・インフォノイドの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社ミンカフ・ジ・インフォノイド